

第13回九州沖縄ブロック研究大会 in おんせん県おおいた大会 反省会

令和3年11月15日(月)

18:30~19:30

Zoom 開催

参加者：仲間（実行委員長）、河田（副実行委員長）、永楽（事務局長）、古賀（大分）、野中（中津）、本田（竹田）、高西（中津）、栗原（中津）、狩生（佐伯）、重松（杵築）、佐藤（別府）、新納（津久見）、魚返（玖珠）、松下（日田）、八幡（豊後大野）、川元（監事）、園田（大分）、梅田（津久見）山田（杵築）、山村（宇佐高田）浅香（津久見）、三宮（日出）、廣瀬（日出）

【良かった点】

- ・大会の参加に対し、受講者割引や主任（更新）研修の要件になることを前面に打ち出し、早めに対応したところ、参加者がある程度集まったのでホッとした。
- ・エンドロールで他の人がどんな動きをしていたのかが見えて良かった。
- ・各地のケアマネと会員同士の横の繋がりができた。
- ・リハーサル時は、接続の問題や映像が出てこなかったりと心配したが、当日はスムーズですごく調整に苦労されたと思う。それぞれが場面や役割を押さえて動いていた。
- ・大きなトラブルなくスムーズに行えた。
- ・法定研修等でリモートを経験してきたので乗り越えられた。
- ・司会者の臨機応変さが良かった。
- ・LINEグループでのやり取りで、皆で色々な情報が共有できて良かった
- ・実行委員同士が和気あいあいとして会場の雰囲気良かった。
- ・和田さんがお茶セットを準備してくれ大変ありがたかった。流石だと思った。
- ・全体的な流れが良かった。リモートの90分はきつい。今回は1h、1h、1hで聞きやすかった。
- ・シンポジスト部屋担当だったが、2人配置だったので相談しながらできて良かった。一人だったらパニックだった。
- ・会議がZoomだったので、参加の負担はありながらも軽減できた。
- ・緊張感が半端なかった。他の人がいたからできた。携われて良かった。
- ・広告は、冊子ではなくスライドショーで動きがあつてよかった。次回も使える。
- ・研修受講証明証が早く届いて良かった。
- ・中津北高校の書道パフォーマンス、編集が良かった。
- ・講師に、わざわざ会場まで来てもらわなくてもよいことが分かった。
- ・期間限定だが、全国の人が後日配信で見られるのが良い。

【反省点】

- ・コアメンバーの負担が大きかったと思う。役割をもっと振り分けたら一人ひとりの負担が少なかったと思う。
- ・通常業務と両立が難しかった。
- ・業務都合にて、急な変更に対応するための話し合いに参加できず申し訳なかった。
- ・実行委員にいたが手助けになれたのか、自分ももっとやれることがあったのではないかと思う。
- ・来賓の当日出迎えの打ち合わせはできていたが、帰りのタイミングが分からず慌てた。今回来賓が2人だったが、集合だと人数も多いので大変だと思った。
- ・会場に来た人がいた（熊本県から）。対応を想定していなかった。
- ・色々なことを想定して対応策を考えていかなければならない。（会場に来る人がいるかもしれないと想定し、その人たち用に別部屋を用意しておく等）
- ・シンポジストの資料準備確認が足りていなかった。
- ・前日のリハまで問題なかったが、当日朝にハプニングでバタバタしたので、当日も少しリハーサルをした方が良かった。
- ・大会参加を勧めるのに周知するのに苦労した。
- ・フルリモート開催は山口と大分だけ。マニュアルを残せると良いと思う。
- ・メイン会場とシンポジスト部屋との距離があったので、連絡手段の確保が必要だった。
- ・シンポジスト部屋の人からメイン会場の様子（流れ）が分からない。
- ・名鉄観光さんと受講者とのメールのやりとりが一部うまくいかずにたいへんだったようだ。
- ・協賛広告については、申込書でやり取りをしたが、メアドが手書きで判別に苦労した。「-」「_」など空欄で返信してくるところもあり、電話して聞くなど手間がかかった。

【その他感想】

- ・配信は、失敗した時の責任など重圧がすごかったと思う。
- ・結果的にうまくいったが、実際に現場でやりながら四苦八苦した。怖かった。
- ・緊張感が伝わった。コアメンバーを見ていて胸が詰まる思いだった。
- ・シンポジウムの急なトラブル時、工藤理事長だったから切り抜けられたと思う。
- ・工藤理事長とシンポジストの方々とのやり取りに引き付けられた。
- ・エンドロールを見た方から、「大変でしたね」と労いの連絡がきた。
- ・エンドロールで涙が出そうになった。
- ・皆で作上げた大会で終われたと思う。

【受講生の声】

- ・映像がきれいだった。
- ・Zoom での参加方法が分からない。
- ・申込方法が分からない。
- ・スムーズな進行でストレスなく受講できた。
- ・聞きやすくスムーズだった。
- ・厚労省の講義も参考になった。岡田先生の話が身近に感じられて良かった。
- ・金子先生の話は、「プロフェッショナルな内容で難しかった」、「良かった」と意見が分かれた。
- ・休憩の音楽が良かった。
- ・シンポジウムで工藤理事長の「科学的介護」「非科学的介護」の話が良かった。
- ・エンドロールで会員の動きが見られて良かった。
- ・全国レベルの研修会にも参加するが、今回の大分県大会はとても素晴らしかった。
- ・大分県協会の会員として誇らしかった。

【検討課題】

- ・当日リハーサル時に、全ての資料を確認し貼り付けておいた方が良かった。
- ・受付が始まってから、「申込をしたがメールが届かない」という問い合わせが多く来た。名鉄観光さんと受講者とのやり取りがもっとスムーズに行えると良かった。
- ・リモートは、コードを足に引っ掛けると全部消えてしまうなどの大失敗する怖さがある。会場だとそんな失敗はない。
- ・ハイブリッドの場合だと、配信担当・会場担当・駐車場担当・当日のボランティアの管理など、もっと大変だと思う。現地集合・フルリモートの二択が良いのではないか。
- ・広告などのやり取りは指定アドレスを作った方が良い。迷惑メールが届くようになった。
- ・広告の申し込みは、協会の HP 上からかどうか。
- ・手書きのアドレスは判別が困難なので、指定のアドレスに相手から空メールを送ってもらうのはどうか。研修申込時に、アルファベットにフリガナを記入する欄を作ったことがあるが、それも困難だった。
(例 : cosumosu →フリガナ コスモス)
- ・申し込みや参加方法が分からない方への対応について、国東姫島では、「分からなければ対応します」と窓口を設け、対応を役員に振り分けて直接事業所へ行ったり、電話で指示を出すなどした。
- ・当日、Zoom が繋がらないという電話が結構かかってきた。連絡用携帯は 2 台用意したが片方だけによくかかってきた。次回開催時も、リモート有りなら対応が必要と思われる。